

投稿規定

この度、投稿規定が以下のように改定されます。会員の先生方からの、より一層のご投稿をお待ちしております。今後ともよろしくお願いたします。

2022年6月 『安全医学』編集委員長 藤田 眞幸

『安全医学』は、日本臨床医学リスクマネジメント学会の機関誌であり、リスクマネジメントや安全医学に関する論文・報告等を受け付ける。

投稿は以下の規定による。

1. 投稿原稿の区分は原著論文、総説、短報、レポート、その他とする。
 - 1) 原著論文：独創性のある理論的または実証的な研究で、完成度の高いもの。
 - 2) 総説：安全医学、リスクマネジメントに関する諸問題を客観的な資料・考察に基づいて広い視点から論じたもの。
 - 3) 短報：独創性、緊急性のある萌芽的研究で、発展性の期待できる研究を手短にまとめたもの。
 - 4) レポート：院内での医療安全・リスクマネジメントに関わる経験や工夫などの報告。
 - 5) その他：トピックス・意見など編集委員会で必要性を認めたもの。
2. 原稿は邦文とするが、英文抄録および英文 Key word をつけるものとする。なお、レポートでは英文抄録・英文 Key word は不要である。詳細は、原則として、別に定める「執筆要領」に従うものとする。
3. 投稿論文は未発表・未掲載のものとする。他雑誌と重複して投稿をしてはならない。
4. 筆頭著者は本学会会員でなければならない。但しこの規定は、依頼原稿（特別寄稿）執筆者には適用されない。
5. ヒトおよび動物を対象とした論文は、世界医師会による「ヘルシンキ宣言—人間を対象とする医学研究の倫理原則（2013年改訂）」のほか、国が提示する「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針等の倫理指針」およびその他の国の定める法令に従い、必要な手続きを踏まなければならない。また、すべての論文において、利益相反の有無について論文の最後に記載すること。
6. 投稿原稿の査読は、原則として2名の査読者によって行われる。採否および掲載順序などは編集委員会において決定し、編集長の名で著者に連絡する。
7. 投稿は、郵送またはメールで受け付ける。原稿部分（図や表以外の全て）は「論文ファイル」として1つのファイルにまとめ、図や表については、図1点ごと、表1点ごとに、それぞれ別のファイルとして作成し、これらをCD-R、USBメモリー等に記録し郵送するか、メールで下記アドレスに送る。なお原則として記録メディアは返却しない。それぞれのファイル名は「執筆要領」にしたがってつけること。

投稿区分（原著論文、総説、短報、レポート、その他）を選択すること、他雑誌に未発表・未投稿であること、倫理規定を遵守していること等について論文投稿時確認書を提出すること、また、論文内容に関係する企業・組織または団体との利益相反関係を投稿時利益相反（COI）申告書（様式A）に記載して、共著者を含め著者全員が各人の利益相反について提出すること。
8. 原著論文・総説は図表を含めてA4版刷り上がり8頁以内（1頁あたり約1,800字）を無料印刷とし、これを越えた場合には、超過1頁あたり2万円の投稿料が必要となる。短報は4頁以内、レポートは2頁以内とする。また、カラー印刷は1頁あたり2万円とする。

なお、これらの掲載料についての規定は、依頼原稿（特別寄稿）執筆者には適用されない。

別刷については有料とし、掲載が確定した際に著者が申し込むものとする。申し込みは30部以上、10部単位で受け付ける。

依頼原稿（特別寄稿）の場合は、別刷30部を無料で進呈する。

9. 掲載された原稿の著作権は日本臨床医学リスクマネジメント学会に属する。但し、執筆者が使用する場合には本会の許諾を必要としない。

10. 投稿に関する連絡先

『安全医学』編集事務局

（住所）〒164-0001 東京都中野区中野2-2-3 へるす出版編集部内

（電子メール）riskmanage@herusu-shuppan.co.jp

（TEL）03-3384-8155 （FAX）03-3383-1584

執筆要領

1. 原稿は、ワープロソフトを用い、横書き、新かな使い、常用漢字で記載する。句読点および括弧は一字として数える。投稿原稿の枚数は、図表などを含めて刷り上がり8頁以内（1頁約1,800字）とする（図表は1点あたり400字と換算する）。原稿はA4版縦を用いて、40字×30行の横書きとする。

2. 和文抄録（400字以内）及び英文抄録（400語以内）を作成すること。英文抄録は英語を母国語とする者の校閲を必ず受けること。

原著論文については、本文は、「1. はじめに」「2. 対象と方法」「3. 結果」「4. 考察」および「5. 結論」として、それぞれ見出しをつけて記載すること。謝辞には番号をつけないこと。

総説の場合は、「1. はじめに」ではじめ、それに続いて見出しを「2. …」「3. …」とつけ、「(最後の番号). おわりに」で締めくくることが。

見出しは、上記のように、大見出しを1、2、3、4、5…とするが、さらに分ける必要がある場合には、中見出しとして1)、2)、3) …を、小見出しとして(1)、(2)、(3) …を用いる。また、その中で分類したり序列をつけたりする必要がある場合には、①、②、③…を用いること。

3. 原稿部分（図や表以外の全て）を「論文ファイル」として次のように1つにまとめること（Wordで20MBまで）。ファイル名は「筆頭著者名.doc (.docx)」とする。

1) 原稿の1頁目に、投稿区分、表題、著者名、所属機関名（複数の場合は、それぞれ、著者名とともに1)、2)、3) …と付すこと）、著者連絡先（住所、電話、ファックス、email address、ただし論文刊行時には、不掲載希望可）、和文抄録および和文キーワード（5個以内）を記載すること。

2) 続いて、改頁を行って、本文、引用文献を記載すること。

3) さらに、改頁を行って、英文 Title、英語著者名（例：Taro Anzen）、英語所属機関名、英語連絡先住所、英文抄録、英文 Key words（先頭文字を大文字にすること）を、1頁目の和文の記載内容に対応して記載すること。

4) また、さらに改頁を行って、図の説明を記載し、全体を1ファイルとすること。なお、表の説明は、各表のファイルの中に入れること。

5) 抄録（和文、英文）や和文キーワードを原稿ファイルに必ず入れること。

4. 図表は必要最小限にとどめること。図は白黒とする。「図のファイル(図1点ごとに1つのファイル)」「表のファイル(表1点ごとに1つのファイル)」として作成すること。複数の図や表を1つのファイルにまとめないように注意すること。

5. 図のファイルは、JPEG、GIF、PDF、PowerPoint、Wordで作成すること。必ず図1点ごとに、「著者名-」+「図(という文字)」+「図の番号」+拡張子（例：安全太郎-図1.jpg）というファイル名をつけ、1つずつファイルを作成する。

6. 表のファイルは、JPEG、GIF、PDF、Excelで作成すること。必ず、表1点ごとに、「著者名-」+「表(という文字)」+「表の番号」+拡張子（例：安全太郎-表1.jpg）というファイル名をつけ、1つずつファイルを作成する。

7. 本雑誌の単位符号は、原則としてSI単位を用いる。(JISZ8203参照)

例：1) 長さ、面積、体積 km、m、cm、mm、 μm 、nm

(特殊な分野ではÅを用いてもよい。)

8. 引用文献は引用順とし、末尾文献表の番号を片括弧数字で記す。

雑誌の場合、全著者名. 表題. 雑誌名. 年号：巻数：頁－頁. の順に記す。

1) 田島静、千々和勝己. 初夏に某小学校で発生した小型球形ウイルス（SRSV）による集団食中毒事例. 日本公衆衛生雑誌. 2003：50：225-233.

2) Adamson J, Hunt K, Ebrahim S. Socioeconomic position, occupational exposures, and gender: the relation with locomotor disability in early old age. J Epidemiol Community Health 2003：57：453-455.

単行本の場合、編・著者名. 書籍名. 所在地：発行所, 発行年：頁. の順に記す。

引用頁は、全般的な引用の場合には省略することができる。

3) 川上剛、藤本瞭一、矢野友三郎. ISO 労働安全・衛生マネジメント規格. 東京：日刊工業新聞社, 1998.

4) Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002.

5) 川村治子. リスクマネジメント. 高野健人他編. 社会医学事典. 東京：朝倉書店. 2002：98-99.

6) Detels R, Breslow. Current scope and concerns in public health. In：Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford：Oxford University Press, 2002：3-20.